



ちばりは ニュース

2020年11月 発行 第42号

千葉県千葉リハビリテーションセンター 広報誌



〒266-0005
千葉市緑区誉田町1-45-2
TEL 043-291-1831 FAX 043-291-1857
ホームページアドレス
<http://www.chiba-reha.jp/>

千葉県千葉リハビリテーションセンターの理念と基本方針

理念

「誰もが街で暮らすために」

Everybody will be in own town

— 私たちは障害児・者の自立と社会参加に向けて良質な医療と福祉を提供します—

基本方針

- 利用者の意思と個性を尊重し、専門職の協働による包括的リハビリテーションを実践します。
- 日々の研鑽により自らの人間性と専門性の向上を図り、安全で質の高いサービスを約束します。
- 地域の各機関との連携を図り支援し、また研究・開発や専門職育成に努めます。

障害者支援施設

更生園の社会リハビリテーション

～更生園は障がいのある方々の自立と社会参加を支援する施設です～

社会リハビリテーションとは、障がいのある人が自分の障がいを正しく理解し、社会の中で活用できる諸サービスを自ら利用し、豊かな社会参加を実現し、自らの人生を主体的に生きていくための「社会生活力」を高めることを目指すプロセスです。（国際リハビリテーション協会,1986）

更生園では、病気やケガなどにより、急性期での治療と回復期での集中リハビリテーションを終えた後、社会でよりよく生活するために、一定期間の訓練を必要とする方、また、先天性の病気や障がいにより、特別支援学校を卒業したが、社会経験が不十分で、自立生活に不安のある方などを受け入れています。障がいのある方が、ご自分の強みを生かし、さまざまな経験を積み重ねることで、自信を取り戻し、自立（自律）した社会参加を目指せるよう、さまざまなプログラムの提供や個別支援を行っています。



データでみる更生園

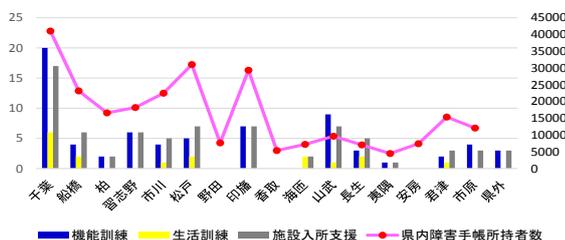
令和元年度利用者 年齢・性別

		機能訓練	生活訓練
平均年齢		45歳	40.8歳
性別	男性	82.9%	94.1%
	女性	17.1%	6.9%

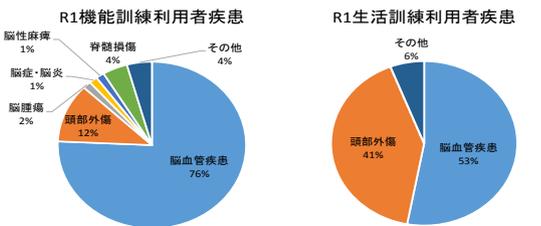
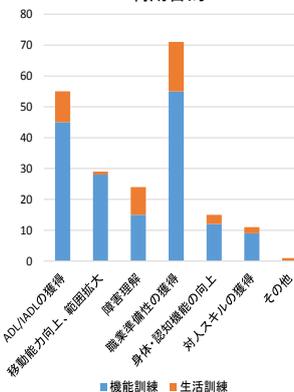
令和元年度利用者FIM

		機能訓練	生活訓練
開始時	身体平均	78.2	88.9
	認知平均	24.3	27.1
	合計平均	102.4	116
終了時	身体平均	82.5	88.9
	認知平均	27.5	29.7
	合計平均	110	118.6
利得		利得平均 7.6	2.6

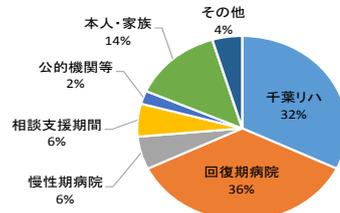
令和元年度 圏域別利用者数



R1利用目的



R1自立訓練(機能+生活)紹介経路



コーディネーターから解説

更生園は県内で唯一、自立訓練及び就労移行支援で施設入所支援を提供している施設であることから、千葉県全域から利用者を受け入れています。当センターの病院部門はもとより、各地域の回復期リハビリテーション病院からの紹介割合が高くなっています。

更生園の利用目的については、利用者の平均年齢が40代であることから、就労を目的とした、職業準備性の獲得、社会参加をするためにできることを増やしたいと、ADL/IADLの獲得や移動能力の向上を目指す方が多くなっています。



更生園利用者へのインタビュー

機能訓練（施設入所支援）終了後、就労移行支援を継続して利用されたAさんに、復職を目指して更生園を利用したことについて振り返りながらお話をいただきました。

Aさんは脳出血を発症し、救急病院で保存的加療を受けた後、当センターの回復期病棟へ転院しました。後遺症として右片麻痺と運動性失語、高次脳機能障害があり、集中的なりハビリテーションを受けました。



回復期病棟MSW

回復期リハで向上した身体機能やADLを活用し、自分の障がいを理解して社会で生活する力を付けることが必要な方に、更生園の情報提供を行い、利用につなげています。



更生園

サービス管理責任者

機能訓練事業では、さまざまなプログラムを提供しています。社会とのつながりを意識して、経験を重ねることで、行動範囲が広がり自己管理能力が向上するなど、社会で生活するための力が身につけていきます。

回復期リハでは、後半になると回復が遅く、リハビリの成果も出にくくなり、投げやりになっていた。そのまま集中リハが終了になり、その後どうしようと考えていた時、病棟MSWから更生園の利用について教えてもらった。機能訓練（施設入所支援）の利用を始め、はじめはリハビリセンターの延長かと思っていた。もっとリハビリをしたいが、色々なプログラムもあり、その必要性には疑問もあった。しかしやっているうちに「これは今だからできることだ」と考えはじめ、ペン習字等のプログラムで手先が細かく動かせるようになり、必要なことなのだ実感した。PTやOTの時間は少なくなったので、コロナ前はプログラム終了後（15:00~18:00）に自主的に外出（屋外歩行）をしていた。区役所で地図をもらい、赤ペンで塗りつぶしながら色々な所へ行った。その結果、活動量も増えて持久力もついたと思う。

機能訓練が終了となり、自宅から通所での就労移行支援（職リハ）利用が始まった。自宅から電車を利用し、歩数は1日10000歩くらい、電車ではつかまれば立っているようになった。職リハに行く時は、復職ということもあり、「大丈夫、できる」という甘い考えがあった。訓練の中でストップウォッチを使うが、ふと気づくとストップウォッチが動いていない（押し忘れ）、それを何度も繰り返す。自分の注意障害を強く自覚するエピソードであり、だんだんと「こんな甘い考えを持っていて本当に復職していいのか」と思うようになり、不安になった。その後も通所と職リハの訓練を数ヶ月続け、リハビリ出勤をした。復職できそうだったのは、リハビリ出勤の振り返りの時、会社の上司から、「会社の方で考えていたAさんの仕事量以上のことをやってくれた」と言われたこと。更生園を利用してよかったと思います。

現在Aさんは復職され、ご自宅から電車通勤をされています。



更生園生活援助員

健康面（服薬等）の管理、金銭や時間の管理など、基本的な生活が自立できるよう、施設入所支援や個別支援を行っています。自立支援室の利用（一人暮らし体験）をすることもできます。

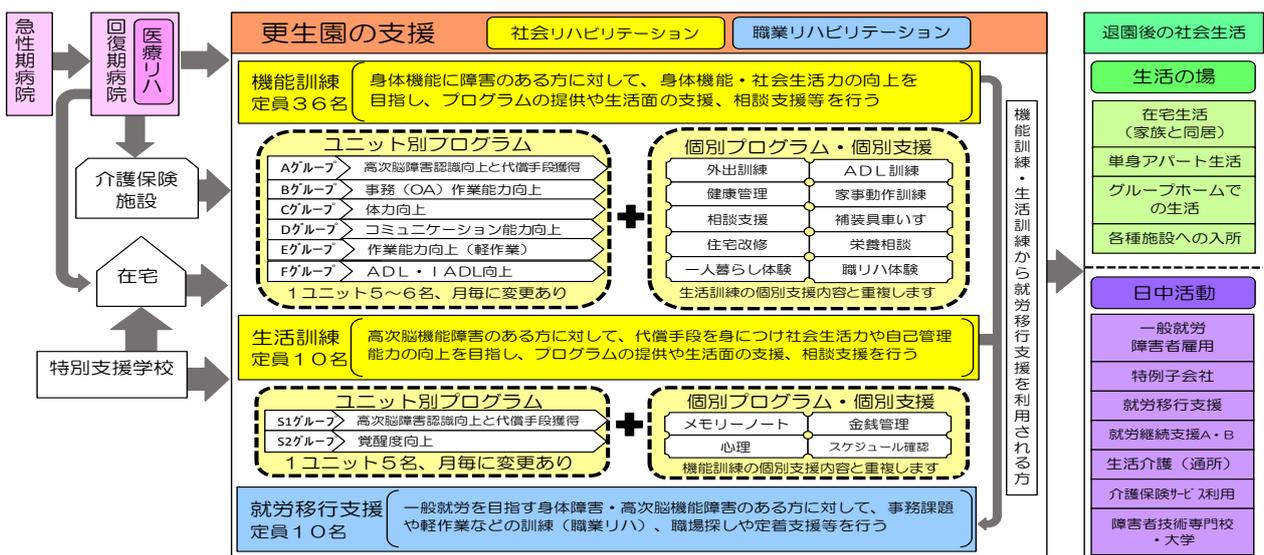
更生園PT

就労や一人暮らしなどの目的を持って、運動や自主リハを続けることが重要です。グループPTでは毎週活動量（歩数）を発表してもらい、仲間と切磋琢磨しながら訓練をすることで体力や持久力も向上します。

更生園職業指導員

就労移行支援事業では、新規就労や復職を目指す方へ「自分らしく働き続けるために」ご自身の障がいの理解と代償手段の獲得などを旨とし、職業リハビリのプログラムを提供しています。

更生園を含めたりハビリテーションの流れ



日本リハビリテーション医学会学会誌論文賞を受賞しました！

当センターでは長年にわたり小児期発症の高次脳機能障害の支援を行ってきました。その中で、平成26年～28年度に富山県高次脳支援センター長である野村忠雄先生を主任研究者とした自賠責運用益拠出事業「学童期・青年期にある高次脳機能障害者に対する総合的な支援に関する研究」に参加しました。

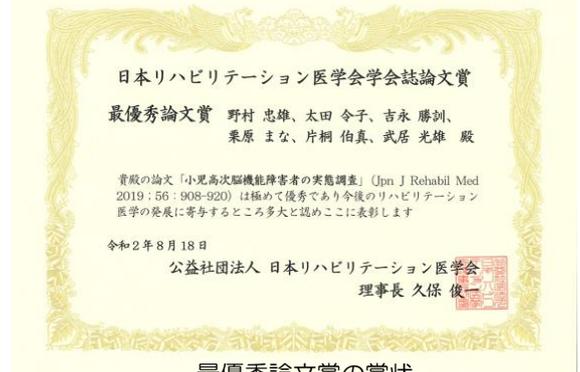
報告書「小児の高次脳機能障害～青年期に至るまでの課題と支援プログラムの提言」では、主任研究者による「小児期発症の高次脳機能障害者の実態調査」の報告に続き、当センターによる「青年期までの教育と青年期の就労に向けた支援」を含む5つの分担研究の報告を行っております。

今回の受賞論文は上記研究を踏まえ、野村先生を中心に18歳未満で受傷発症し高次脳機能障害の診断を受けた方々198名を対象とした実態調査の結果をまとめ発表されたものです。(野村忠雄ほか「小児高次脳機能障害者の実態調査」リハビリテーション医学2019年56巻908～920頁)

以前、厚生労働省により平成13年から5年間にわたって高次脳機能障害支援モデル事業が展開され、その中で実態調査が行われましたが、その対象は成人期になって発症した方々が中心でした。今回の受賞論文で特筆すべきことは、小児期に発症した方々を対象としたことであり、成人期発症者と比較した原因疾患や主要症状について、また、小児期発症のために受傷発症後に起こるライフイベント、高校・大学への進学やそこでの課題、就労状況などが検討されています。

考察では、①小児期発症ゆえに高次脳機能が発達途上であり、症状に気づかれにくい早期診断・早期支援につながりにくいこと②小・中・高校在学中の受傷発症の場合の復学率が70%以上であることに對し、高校や大学での中途退学率は高く、進学指導や学生指導の充実が必要なこと③就労では、今回の対象者の就労率が他の調査よりも低く、就労経験のある成人発症者以上にさまざまな就労支援が必要であることなどが述べられています。

まさに現場で実感している課題を描き出されているこの論文が日本リハビリテーション医学会において高い評価を得たことは、大きな喜びとなりました。



最優秀論文賞の賞状

介助犬とふれあおう！！～Dog Intervention～の開催



愛育園では、10月10日に当センター大ホール等で、Dog Intervention（動物介在介入）を行いました。新型コロナウイルス感染症の拡大により、園の様々なイベントが制限される入園生活となっている利用者の方に、喜びや精神的な落ち着き等の増大、ストレスや不安等の軽減をしていただけるようにと企画し、感染症拡大防止対策を行った上で実施しました。

当日は（社）日本介助犬協会から、4頭（ナビ、キース、ファンタ、ハッシュ）の介助犬のPR犬とトレーナーの皆さんに来ていただきました。犬たちとふれあい、見て笑顔を見せる方、ふわふわな毛を触って感触を楽しむ方、恐る恐る触っては手を引っ込める方、最初は怖がっていたのに途中から触れるようになる方など、たくさんの表情を見ることができました。中には怖くて近づけずに泣いてしまった方もいましたが、多様な感情が自然と溢れる素敵な場となりました。

その他、介助犬のデモンストレーションを行っていただいたり、介助犬に指示をして物を拾ってもらった体験をしたりもしました。

第16回高次脳機能障害リハビリテーション
千葉懇話会（ご報告）

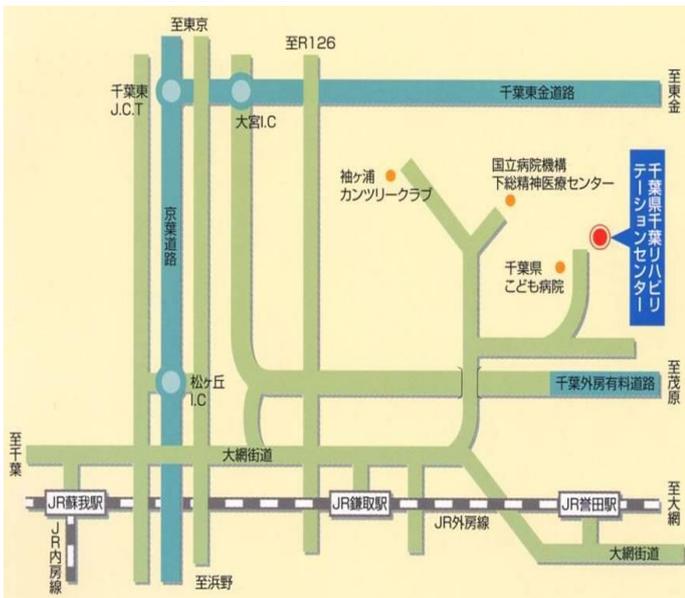


10月23日（金）Web配信にて、第16回高次脳機能障害リハビリテーション千葉懇話会を開催いたしました。今回は東京都リハビリテーション病院の武原格先生を講師にお招きし、「脳損傷者の自動車運転再開に必要な知識と支援の実際」というテーマでご講演いただきました。

今回は、約350名という過去最高の参加申し込みがあり、多くの医療・福祉関係者の方々に講演をご視聴いただくことができました。

WEB開催という慣れない形式での研修会企画であり、スタッフ一同緊張感の中での配信スタートとなりましたが、視聴された皆様からご好評いただき、大きなトラブルもなく終了することができました。

センター案内図



講演会等のお知らせ

【Web開催】

2020当事者・家族のための高次脳機能障害勉強会
日時：2021年1月13日（水）14:00～15:00

講演：「高次脳機能障害の主な症状と基本的な対応」
講師：千葉県千葉リハビリテーションセンター高次脳機能障害支援センタースタッフ

対象者：県内にお住まいの高次脳機能障害のある方やその家族

参加費：無料



【Web配信】

第17回高次脳機能障害リハビリテーション講習会
日時：2021年1月22日（金）～28日（木）

講演：「知ってほしい！千葉リハ高次脳支援～回復期医療その後～」

講師：千葉県千葉リハビリテーションセンタースタッフ



対象者：当事者・家族・支援者等、高次脳機能障害支援に興味をお持ちの方

参加費：無料

詳細が決まり次第、センターHPに掲載いたしますので、随時ご確認ください。

車のご利用

- 千葉東金道路 大宮インターから約10分
- 京葉道路 松ヶ丘インターから約25分

電車・路線バスのご利用

- JR千葉駅東口から千葉中央バスのりば2「千葉リハビリセンター」行 約40分
- JR外房線鎌取駅北口から千葉中央バスのりば2「千葉リハビリセンター」行 約9分

無料送迎バスのご案内

平成25年10月5日改定

（センター⇄JR鎌取駅 循環運行）

JR鎌取駅北口発 千葉リハビリテーションセンター行き

時	平日	土曜日
8	10 30 50	10 30 50
9	10 30 50	10 30
10	10 30 50	20 40
11	10 30 50	00 20
12	10 30 50	
13	10 30 50	
14	10 30 50	
15	10 30 50	
16	10 30 50	
17	10 40	

千葉リハビリテーションセンター発 JR鎌取駅北口行き

時	平日	土曜日
8	03 23 43	03 23 43
9	03 23 43	03 23
10	03 23 43	13 33 53
11	03 23 43	13
12	03 23 43	
13	03 23 43	
14	03 23 43	
15	03 23 43	
16	03 23 43	
17	03 33	

- ①センター送迎バス発着場所について
鎌取駅発・・・鎌取駅北口ロータリー付近（専用のバス停はございません）
センター発・・・センター正面玄関前
- ②車椅子ご利用の乗車定員について
中型バス（黄色）・・・2名
マイクロバス（水色）・・・3名
- ③日曜・休日は運休となります。
- ④道路混雑等により遅延する場合があります。